

3月10日 ヨハネによる福音書 12章 1～8節

説教題：「私はあなたとは違う」

今日の個所では、香油でイエス様の葬りの準備を行ったマリアに対して、イスカリオテのユダが「なぜお金の無駄遣いをしたのか」と問い詰めています。まるで「私はそんなことをしていない」と棚に上げるかのような言葉であります。ヨハネ福音書では「金入れを預かっている」「中身をごまかしていた」人物としてユダの説明がなされています。

そのマリアへの言葉に対して、イエス様は「この人のするままにさせておきなさい」と声をかけました。そしてユダに対しては、最後の晩餐の終わりにおいて「しようとしていることを、今すぐ、しなさい」と声をかけることとなります。二人は二人とも、自分が何をしているのか、本当の意味を知らないまま、しかしどちらも何かに背中を押されるように、イエス様の十字架への準備を進めた人物であります。

このユダという人物は、英語の JUDAS がそのまま「裏切り者」という意味を持つほどに、福音書で一番の嫌われ者であります。イエス様を死に迫いやるという最低な行いを担った「最も低い」彼は、しかしイエス様の十字架を成就させるという神の業を担うことになりました。そして、高価な香油を無駄にして「もっといい使い道がある」とののしられたマリアは、しかしイエス様の十字架への道行きを祝福する預言者の役を与えられました。

そう理解すれば、私たちもまた、この受難節の歩み方が変わってゆくのではないのでしょうか。私たちは今、自分の歩みを振り返り、悔い改めるこのレントの時を過ごしています。悔い改めれば悔い改めるほど、自分の小ささ、不甲斐なさ、至らなさを痛感するものであります。しかし、イエス様を見上げてその高さにくらくらす、自分の低さに卑屈になってしまう、イエス様に対して「私はあなたとは違うんだ」と言ってしまうこともあるとは思いますが、私たちはイエス様がこの世の理をひっくり返す方であることをよく知っていると思います。ユダを用いて十字架を実現したように、女性のマリアを用いて油を注がせたように、この小さな私たちを用いて、神様の業を実現するのがイエス様なのです。私たちは、その事実を今ここで、希望をもって受け止めることが出来るのです。

私たちはイエス様とは違う一人一人の人間です。しかし、私たちは一つの教会として、イエス様の元同じ方向を向きながら歩むことが出来るのです。神様によって結びあわされたこの教会生活を、この一週間も、これからも、共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書12章1～8節

- ・1:過越祭の六日前に、イエスはベタニアに行かれた。そこには、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。そのとき、マリアが純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではない。彼は盗人であって、金入れを預かっていたながら、その中身をごまかしていたからである。イエスは言われた。「この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない。」